【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成19年4月19日(2007.4.19)

【公開番号】特開2005-261548(P2005-261548A)
【公開日】平成17年9月29日(2005.9.29)
【年通号数】公開・登録公報2005-038
【出願番号】特願2004-76157(P2004-76157)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｂ　6/00　(2006.01)
Ａ６１Ｂ　6/03　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｂ　6/00　３００Ｇ
Ａ６１Ｂ　6/03　３２０Ｋ

【手続補正書】
【提出日】平成19年3月2日(2007.3.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１９】
すなわち本発明では、Ｘ線管１の焦点ＦがＦ′の位置へ移動したとき、その移動に応じて、その移動方向へコリメータ２を平行移動させることによって、コリメータ２を構成する一対のＸ線遮蔽リーフ２ａ、２ｂを介して被検体Ｐに照射されるＸ線量を同じにしようとするものである。ただし、コリメータ２を平行移動させることにより、被検体Ｐに対するＸ線照射位置がずれることになるので、この場合は、コリメータ２を平行移動させた分だけ、同じ方向へ被検体Ｐを平行移動させてＸ線照射位置を合わせるのが望ましい。またこれは相対的な問題なので、コリメータ２（Ｘ線遮蔽リーフ２ａ、２ｂ）や被検体Ｐを移動させないのであれば、Ｘ線管１の焦点Ｆの移動分だけＸ線管１のみを逆方向へ移動させてもよい。なお、１回のスキャンで複数スライスの画像データを収集する形式のＸ線ＣＴ装置では、Ｘ線管１の焦点Ｆの移動によってスライス位置が変わるだけであれば、コリメータ２を平行移動させた分だけ、同じ方向へ被検体を平行移動させることなく、そのまま別のスライスデータとして利用することができる。